

(事後評価)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）

(実施期間：令和3～4年度)

代表機関：同志社大学（総括責任者：植木 朝子）

共同実施機関：上智大学

取組の概要

女性研究者の研究力向上、キャリアパス支援等、研究環境整備や大学の戦略目標や実行計画への反映に必要な課題、事例、知見の収集分析を行うことを事業の目的とする。学内意識調査、全国ダイバーシティネットワークを通じた国内機関の事例調査を実施、両機関で課題を共有し、分析結果を海外調査の内容に反映する。海外は米、独、泰4大学の特徴を踏まえ、国の認証制度、各機関の採用、上位役職への登用等、機関の意識改革や女性研究者の研究環境に関する取組を調査する。特に採用、登用面においては、男女双方の視点や海外ならではの多様性の観点からくる意識や制度の利用状況を学ぶことで両大学の戦略や実行計画の検討に反映する。また、「女性研究者支援モデル育成」事業を契機に女性研究者増に繋げた実績と現課題を海外調査に反映することでより具体的な検証を可能とし、世界水準を目指した私立大学のダイバーシティ推進モデルを目指した取組とする。

(1) 評価結果

総合評価	計画達成度	取組	取組の成果	実施体制
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

2つの私立大学が連携し、各々の大学における学内調査に加え、国内の私立大学を対象とした女性研究者活躍促進への取組状況に係るオンライン・アンケート調査及びヒアリング調査を実施し、分析結果から私立大学特有の課題として、「私立大学の多様性」、「大学経営層の意識」を提示した。これら課題に対応するため、海外の私立大学等を対象としたヒアリング調査及びアンケート調査を実施し、日本の私立大学が活用できる2つの「ダイバーシティ推進モデル」、「スタートアップ型」と「アドバンス型」を提示したことは評価できる。代表機関、共同実施機関共に、調査分析の成果を大学ホームページで公開し、また、一般社団法人日本私立大学連盟（私大連）の機関誌「大学時報」に調査分析の成果を掲載し、成果の可視化に努めており評価できる。さらに、国際シンポジウムを開催し全国の大学、特に私立大学へ2つの「ダイバーシティ推進モデル」の普及を積極的に図っており評価できる。今後は、海外の私立大学における先進事例やそれらを我が国の私立大学に活かすための視点・方法論等をより積極的に発信することを期待する。

- ・ **計画達成度**：連携する2大学による学内調査、国内調査、それらの分析を踏まえた海外調査と分析、調査分析により得られた知見の活用方策の提示など当初の計画をすべて達成したことは評価できる。
- ・ **取組**：私立大学特有の課題を可視化し、私立大学のための「ダイバーシティ推進モデル」を提

言するため、学内調査、国内調査、海外調査、国際シンポジウムの開催等、多面的な取組を着実に実施したことは評価できる。また、調査分析の成果を広く国内外へ発信するため、調査分析報告書、好事例集を大学ホームページで公開するとともに、国際シンポジウムを開催したことは評価できる。

- **取組の成果：**私立大学において、女性研究者の活躍促進、ダイバーシティ推進を図る上での課題として、「私立大学の多様性」、「大学経営層の意識」を挙げ、これら課題に対応するため私立大学が活用できる2つの「ダイバーシティ推進モデル」、「スタートアップ型」と「アドバンス型」を提示したことは評価できる。また、インターネットの活用やシンポジウムの開催により、2つのモデルを広く全国の私立大学へ普及させようと努めたことは評価できる。今後は、私立大学へ向けた提言の発信といったより具体的なアクションを期待する。
- **実施体制：**2大学とも、学長のリーダーシップの下、本調査分析事業を大学の中心政策と位置づけ、「ダイバーシティ調査分析運営委員会」及び「ダイバーシティ調査分析タスクフォース」を共有組織として設置し、連携して取組を進めたことは評価できる。また、私大連等を通じて、「ダイバーシティ推進モデル」の普及に努めたことは評価できる。